

キャラクター名
櫛浜 薫（くしばま すみれ）

- プレイヤー名 _____

- ボイスサンプル・概要
「おはようございます、今日もとても良いお天気ですね」
「私は、この支部で、大切なものをずっと護り続けると決めてあります」
花水木支部の支部長。戦闘支援およびカウンセリング担当。この支部を訪れる様々な人に対し接する事で、少しでも心のケアが出来ればと活動している。
- 覚醒
元は一般家庭だったが、両親は早くに亡くなり、親戚に姉妹でお世話になっていた。家族関係は良好ではあれど、彼女にとっての本当に頼れる存在は姉一人であった。（姉妹仲は当然良好）
姉妹揃って休日に出掛けているある日、ジャーム（“輪廻の獣”）に襲われ覚醒。この時にウロボロスに感染するが、当時はまだウロボロスシンドロームの概念が無いため、プラム＝ストーカーと誤認している。（《雲散霧消》も本人的には《血霧の盾》みたいな感じで使ってる）
姉妹共々感染しUGNにお世話になり、その時にUGNエージェントになろうと二人で話して決めた。またこの時PL3に何らかお世話になっており、配属先もPL3への恩返しの意味も込みで、花水木支部にしてもらった。
- バーソナル
大学では心理学を専攻し、エージェントになる前はカウンセラーだった。覚醒してからはその特性が強く出ており、感受性1000倍になった。
姉至上主義というか、重度のシスコン。病みも若干あるが、基本は穏やかな保健室のお姉さんみたいなイメージ。その気になれば自分に《狂戦士》をかけてブン殴るくらいの気概がある。背がかなり高いため、第一印象で姉妹を逆と誤認されることがしばしばある。
- エフェクトイメージ
自分の血液から化学薬品を作り、それを散布することでバフしたり被ダメ減したりする。
- 想定シチュ
・大切な人を目の前で実際に自分が初めて喪失した。（8歳年上の姉。ちょうどシナリオ3で同じ年になってしまった）
・カウンセラーとして、Dロイズとして、人の痛みを“分かった気になっていた”。本当は何も分かっていなかった。
- 第3話での変更点
花水木支部の支部長になりました。